

令和6年度 淀川における舟運を活かした賑わいづくり実証事業（実施概要版）

事業目的

令和6年度事業は、中下流域は推進体制の強化等が必要なものの商品化の方向性が見えてきたため、**上流域(枚方以北)に重点を置いて**、沿川のDMO・観光協会等、舟運事業者その他の企業、関係者が一体となって**舟運を活用したモニターツアーの実施、ツアー商品の販売促進等に向けた具体的な検討**等を行い、**各地域の主體的な取組による「淀川舟運を活用した賑わいづくり」が定着**することを目指す。

事業概要

- (1)検討会の開催・運営
- (2)各地域と淀川舟運をつなぐ観光資源・テーマ・ストーリーの収集・整理及び活用方法の検討
- (3)定番(売れ筋)となり得る船内コンテンツの検討
- (4)観光モデルコースの検討
- (5)モニターツアーの実施
- (6)鉄道駅・観光資源・船着場をつなぐ多様な移動手段と人流データ取得・分析方法の検討
- (7)販売促進ツール、販売手法・体制整備、ツアー内容向上に向けた資料の共有についての検討

淀川上流域と舟運をつなぐテーマ・ストーリー

①「日本の文化と食を育んだ地域の歴史と自然を体験する」

- ・茶道、酒、和食、歴史、自然、日本人の精神にふれる旅。
- ・日本の文化と食を代表する場所を訪れ、それを育てた地域の歴史と自然、その奥にある日本人の精神性を体験する旅。

②「『淀川舟運』の歴史にふれる旅」

- ・中世から江戸時代に、皇族や貴族、文化人、庶民などの乗客の利用や物流に活用された淀川舟運や船宿の歴史にふれる旅。
- ・神社への参拝、船宿での休憩など、沿川での当時の活動を体験するプログラム等と組み合わせることで、立体的なプログラム化。

③「淀川水系の自然を楽しむ旅」

- ・宇治川、木津川、桂川の三川合流から淀川へつながる地域で、河川や沿川の「風景」「自然」を体験する旅。

④「淀川水系の恵みに感謝する旅」

- ・SDGs視点で、淀川水系のもたらす恵み、沿川の人々の活動やそれを支えるインフラ等について学ぶ旅。

定番（売れ筋）となり得る船内コンテンツ

①茶会クルーズ（1時間、2時間）

- ・日本文化である茶道を取り入れたクルーズ。船内または発着・寄港地での茶会を取り入れたクルーズ。沿川には宇治もある。

②ほろよいクルーズ（1時間）

- ・日本を代表する酒どころ伏見のある上流域の特徴をいかしたクルーズ。江戸時代には酒も淀川舟運で運ばれていた。

③淀川上流カルチャークルーズ（1時間、2時間）

- ・淀川を船で旅した芸術作品を船に乗りながら、専門家の解説を聞くカルチャー教室スタイルのクルーズや江戸期の淀川の河川図等を専門家と一緒に読み解きながら楽しむクルーズなど、沿川と淀川舟運のカルチャーを楽しむクルーズ。

④伝統芸能体験クルーズ（1時間、2時間）

- ・日本の伝統芸能（三味線、和太鼓、民謡など）を体験しながら、沿川風景を楽しむクルーズ。

⑤YODOGAWA JAZZクルーズ（1時間、2時間）

- ・JAZZや軽音楽の生演奏と共に、沿川の風景を楽しむクルーズ。上流域に醸造所や工場のあるウイスキー（山崎）やビールとのカップリング演出も楽しい。

⑥淀川上流の自然体験クルーズ（1時間、2時間）

- ・淀川で活動する「淀川河川レンジャー」のガイドにより、淀川水系の自然や動植物等の解説を聞きながら、川の恵みに感謝するクルーズ。

観光モデルコース

- 伏見、背割堤、枚方の上流域の3つの船着場発着のクルーズ+沿川観光を入れたモデルコースを設定（15コース）
（例）伏見船着場発の「伏見の酒と淀川舟運の歴史を訪ねて 伏見～枚方へ」

船着場	ツアータイトル	コンセプト	行程	ターゲット層
伏見 (背割 枚方)	伏見の酒と淀川舟運の歴史を訪ねて 伏見～枚方へ	歴史・文化 体験	伏見での酒蔵巡り→十石舟乗船（または徒歩）→伏見港→（ほろよいクルーズor茶会クルーズ）→背割堤（さくらであい館）→（クルーズ）→枚方→鍵屋	・40代以上男女の個人グループ旅行層 （国内、訪日外国人）
	◆江戸時代に、淀川舟運（三十石舟）を使って運ばれた伏見の酒の流通をたどるコースです。伏見の酒蔵巡りをした後、伏見から、背割堤（さくらであい館）を経由し、枚方へクルーズ乗船します。			

モニターツアーの実施

■第1回モニターツアー（淀川クルーズFESTIVALにあわせて実施）

日時：令和6年10月13日(日) 10:00～15:00

■実施概要

沿川の賑わいイベントと連携したクルーズについて検証。
江戸時代に、淀川舟運（三十石舟）を使って運ばれた伏見の酒の流通をたどり、日本の伝統芸能を体験しながら、風景を楽しむクルーズを実施。

■タイムスケジュール（下りコース）

10:00 伏見のまち歩き～月桂冠大倉記念館見学・試飲体験
11:00 十石船にて伏見船着場に移動。伏見港歓迎イベント（昼食）
12:25 旅装束を着て和文化体験クルーズ（伏見～背割堤～枚方）



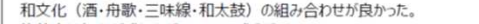
伏見まち歩き（寺田橋前）



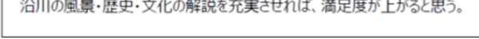
月桂冠記念資料館で試飲体験



キッチンカーで昼食



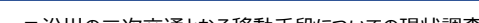
船内で舟歌や家歌



伏見船着場まで十石船で移動



船中は旅装束で



船谷大協力歓迎イベント

■コメント・モニターの意見

和文化（酒・舟歌・三味線・和太鼓）の組み合わせが良かった。
旅装束は気分が盛り上がり、いい感じだった。
沿川の風景・歴史・文化の解説を充実させれば、満足度が上がると思う。

■第2回モニターツアー（伏見～枚方 沿川カルチャークルーズ）

日時：令和6年11月28日(木) 10:00～15:00

■実施概要

沿川のイベントがない平常時のクルーズについて検証。
老舗和菓子店によるお茶席を体験して、沿川の歴史や文化を学びながら、風景を楽しむカルチャークルーズを実施。

■タイムスケジュール

10:30 さくらであい館にて「やわた走井餅」当主によるお茶席体験
12:30 カルチャークルーズ（背割堤周遊）
13:45 参加者との意見交換会



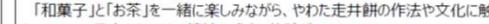
走井餅の制作過程を見学



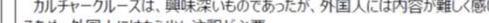
沿川の歴史文化の解説



できたてのお菓子でお茶席体験



背割堤から乗船



船内 淀川両岸一覧 眺望



ツアー参加者との意見交換会

■コメント・モニターの意見

「和菓子」と「お茶」と一緒に楽しみながら、やわた走井餅の作法や文化に触れることで、日本ならではの精神を感じる体験ができた。

カルチャークルーズは、興味深いものであったが、外国人には内容が難しく感じるため、外国人にはもう少し注釈が必要。

鉄道駅・観光資源・船着場をつなぐ多様な移動手段と人流データ取得・分析方法の検討

- 沿川の二次交通となる移動手段についての現状調査を行い、各船着場毎に検討の結果、伏見、背割堤、枚方の各船着場とも、鉄道最寄り駅～船着き場間のアクセスは徒歩圏内であり、アクセス上の課題はないが、各船着場～主要観光資源へのアクセスでは、一部アクセスについて課題があることがわかった。
- 動態（人流）の収集分析方法については、様々な人流データ収集方法についての調査等を行った。

販売促進ツール、販売手法・体制整備、ツアー内容向上に向けた資料の共有についての検討

- モニターツアーで実施したクルーズや体験をベースにした、販売促進ツール、タリフ案の作成
- 今後のツアー内容向上に向けた磨き上げとして、「淀川両岸一覧」を活用した方策
- 事業終了後も継続的に情報交換できるよう、上流域内の船着場を持つ自治体や観光関係者、舟運事業者、河川関係者等、地元を中心として共同活動を継続的に実施できる推進体制が必要であり、国は地域に伴走し、各取組を支援することを通じ、「舟運」の定着、地域での自走を下支えすべきとの結論。



日本の伝統芸能
体験クルーズ



淀川
カルチャークルーズ